

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	障害児保育の充実						掲載ページ
							43
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	子ども家庭局
		179,576 千円	233,401 千円	施策名	保育サービス	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	通常保育での受け入れに加え、延長保育、一時保育を含めて統合保育の可能な障害のある子どもの受け入れを行います。また障害のある子どもの福祉の向上と、保護者の就労を支援するため、関係機関の協力のもと、統合保育の可能な重度の障害のある子どもを直営保育所で受け入れます。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動計画	統合保育の可能な障害児を通常保育だけでなく、延長保育、一時保育での受け入れを行います。また、統合保育の可能な重度の障害児を直営保育所で受け入れます。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	通常保育における障害児の入所状況	157 施設 (100%)	158 施設	158 施設 100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	・通常保育で障害児の受け入れを全保育所で行います。 ・統合保育の可能な重度障害児の受け入れを直営保育所で行います。 (最終目標と最終年度) 全保育所、平成26年度						
	特別保育事業における障害児の入所状況	(延長保育) 144 施設 (一時保育) 54	(延長保育) 144 (一時保育) 60	(延長保育) 145 (一時保育) 63 100.0 %	順調 やや遅れ	順調	
・保護者の仕事と子育ての両立支援を図るため、通常保育のみならず特別保育事業においても、全保育所で障害児の受け入れを行います。 (最終目標と最終年度) 全保育所、平成26年度							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成25年3月1日現在、107施設で307名の障害児を受け入れました。直営保育所では重度障害児13名を受け入れました。障害の有無にかかわらず、一緒に保育し、ともに育ち生活する中で、相互の健全な育成を図ることができます。保育所での保育が可能な障害のある子どもを積極的に受け入れており、なおかつ就労を希望する保護者も増加すると思われるため、障害児保育のニーズは高まると予想されます。有効性は、高いと思われます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現在は障害児数に応じた職員配置を、常勤やパートで行っており効率性は高いと考えます。これ以上のコスト削減は困難と考えます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
本事業は、児童の福祉向上に資するところも大きく、保護者の就労支援、子育て支援を図る上で施策に対する有効性も高く、今後も関係機関との連携、研修、会議等内容を工夫しながら、保育の質の向上を図り、着実に取り組むことが適当だと考えます。今後も継続して事業を実施します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	保育所・幼稚園等から小学校・特別支援学校への連絡体制・情報の共有機能の強化						掲載ページ
							44
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	子ども家庭局
		0 千円	0 千円	施策名	保育サービス	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保育所・幼稚園等と小学校・特別支援学校が、特別な支援が必要な児童についてのケース会議を持ち、就学に向けた入学児童の一人ひとりの引継ぎ資料等を作成するなど、入学時の連絡体制・情報共有機能を強化します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	就学に向けて児童一人ひとりの連絡体制・情報共有機能を強化します。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	保育所指導保育要録の送付	157 施設 (100%)	158 施設	158 施設 100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	北九州市内の認可保育所において共通で使用している様式の保育所児童保育要録を記入し、全保育所から就学先の小学校へ送付します。 (最終目標と最終年度)						
	小学校・特別支援学校との連携体制の強化				順調 やや遅れ 遅れ	順調	
各学校における連絡会等の内容や開催時期等の差がありますが、全就学先で実施が可能となるように、教育委員会と連携していきます。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	北九州市内の全認可保育所からは、3月に保育所児童保育要録を送付し、小学校入学児童の一人ひとりについて、情報の共有を図りました。就学前教育において、入学の連絡体制、情報共有機能を強化するために、有効性は高いと考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現行の組織体制の中で、それぞれの連携強化をもって対応しており、特段の予算はかけていないため、経済性・効率性は高いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
障害のある子どもを含めたすべての子どもの生活と発達を理解するうえで、個別の情報伝達は大変重要です。保育所児童要録の送付やさらに入学時の連絡体制・情報共有機能の強化は必要と考えています。今年度も全保育所から保育所児童保育要録を小学校に送付します。

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

<b>事業名</b>	一時保育事業						掲載ページ
							48
<b>コスト</b>	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	子ども家庭局
		49,342 千円	54,487 千円	施策名	保育サービス	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
<b>目的</b>	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	保護者のパート就労や冠婚葬祭、及び育児リフレッシュ等の理由により、一時的に家庭での保育が困難となる児童を保育所において保育します。今後は、実施施設数を増やします。			<b>活動実績</b>	活動結果は以下内容のとおりです。	
<b>活動計画</b>	引き続き一時保育実施施設を増やし、子育て家庭等の支援を行います。						
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】		
	一時保育事業を実施する保育所			63 所	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	保育所の新設や改築に伴い一時保育室を設置するなどして一時保育事業実施保育所数の増を図ります。  （最終目標と最終年度）64所、平成26年度	59 所	58 所	108.6 %			
					順調	<b>順調</b>	
				やや遅れ 遅れ			

【Check】評価(分析)			
<b>分析及び課題の整理</b>	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成24年度は4所で新規開設を行い、全63施設において年間延べ25,829人でした。一時的な就労等多様化する就労形態への対応や、専業主婦等の育児リフレッシュへの対応等について高い効果があります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	補助金は利用児童数に応じた額となっており、限られた補助の中で人員を配置し実施するなど、合理的に事業を行っています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
保護者の就労形態の多様化等に対応するため、「元気発進！子どもプラン」に基づき事業の拡充を行います。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	障害児通園施設の機能強化						掲載ページ
							176
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,954 千円	3,027 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害児通園施設の専門的療育機能を強化するとともに、専門機関としての地域の保育所等への支援を強化します。また、保護者の就労支援やレスパイトについても配慮した対応について検討します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	保育所等へ巡回相談事業を開始します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	保育所等への支援件数	134 件	-	381 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	専門的機能を活かした取組みであり、地域の保育所等に対する支援の度合いをはかる目安になると考え、掲げました。 (最終目標と最終年度)					
	障害児通園施設における日中一時支援事業(放課後対策)の延べ利用者数	100 人	-	66 人	順調 やや遅れ 遅れ	順調
利用者数の増加は、保護者の就労支援やレスパイトにつながると考え、掲げました。 (最終目標と最終年度)						

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  保育所へ訪問は順調に実施されています。日中一時支援は、2施設で事業を実施しています。同様のサービスで「放課後等デイサービス」の事業所が増加していることから、そちらへ移行する状況が見られます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  保育所への巡回機能は、市内では障害児通所施設(現、児童発達支援センター)と総合療育センターが実施できるものです。同じ体制を市が実施すると人件費等のコストがかかることが予想されます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
<p>保育所の巡回については、一部が保育所等訪問事業への移行が考えられます。日中一時支援についても、放課後等デイサービスへの移行が考えられ、利用者のニーズに応じて実施します。</p>

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	障害児入所施設の機能強化						掲載ページ
							176
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		39,402 千円	39,288 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害児施設の専門的・技術的機能を活かし、地域の障害のある子どもへの相談支援機能強化を図ります。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	平成23年度から本事業委託を開始し、障害児入所施設において障害のある子どもへの相談支援を強化します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	外来療育相談件数	821 件	-	799 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	在宅の障害児(者)及び家族等に対し、外来の方法により、各種の相談・指導を実施します。相談件数が障害者の利便向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)					
					順調	順調
(最終目標と最終年度)				やや遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	今年度も障害児施設の特徴を活かした様々な障害児に関する相談を受け、順調に外来相談が実施されています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	指定管理業務として実施しており、経済性、効率性は良いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
引き続き実施していきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	特別支援教育相談センターにおける相談事業						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		25,384	千円	36,301	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	北九州市における特別支援教育の充実を目指し、保護者や学校の相談に応じるため、併設の北九州市立総合療育センターや関係機関等との緊密な連携のもと、巡回相談・教育相談・就学相談・通級相談の各事業を行います。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	巡回相談や教育相談では、専門相談員や専門家チーム(総合療育センター医療スタッフと特別支援教育相談センターのスタッフで構成)が、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例の相談において専門的なアセスメントを助言し、効果的な相談を行います。								
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】		
	巡回相談(専門相談員が行った相談回数)		-	人	50	人	68	人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	巡回相談に申し込みのあった事例の実態に合わせて専門相談員を同伴し、多面的に実態把握を行い、専門性に裏付けられたアセスメントができるようにします。 (最終目標と最終年度)								
	巡回相談・教育相談(専門家チームが学校を訪問した実数)		6	校	6	校	7	校	大変順調
巡回相談や教育相談において、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例の中でも、医療スタッフの専門的なアセスメントが必要な事例は専門家チームを派遣し、効果的な相談を行います。 (最終目標と最終年度)		116.7 %							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	就学相談は、自閉症・情緒障害特別支援学級への申し込み数の増加に対応するために、医師の診察回数を増やしました。通級相談の申し込み数の増加には、相談日を増やすことで対応しました。システムを改善したことで就学相談や通級相談の増加した申し込みへの対応がスムーズにできました。 専門相談員や専門家チームを活用することで、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例の相談においても専門的なアセスメントを助言することができ、保護者・学校・園にとって手厚い支援ができています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	各相談業務とも相談件数及び、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例が増加しています。費用対効果は高いと言えます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
早期支援コーディネーターを配置し、関係機関と連携して就学に向けた幼児期からの教育相談・支援の充実に向けた取組をします。個別の教育支援計画等を活用するなどして、就学前の保育所・幼稚園から指導や支援の継続を図る取組を進めます。特別支援学校のセンターの機能との連携を密にして効果的な相談支援の在り方を具体化します。言語聴覚士など専門家を配置することで複雑化・多様化にも対応できるように進めます。